

平成26年度 協働事業振返り調査票

協働事業の名称 受診サポーター育成・運営システム構築業務

所属名(団体名) 経営企画課

1 事業の振返り

振返り項目	振返り結果 1～5を記入	コメント(理由、感想、気づいたことなど)
1-1 協働相手の選定(市) 協働相手を公募しましたか。公募しない場合は、選定理由を明確にしましたか。	5	課題解決型提案事業として公募
1-2 協働相手の選定(団体等) この事業の協働相手として自分の団体はふさわしい団体でしたか。	—	—
2 目的の共有 事業の目的・目標を共有しましたか。	5	事業計画書や協定・契約締結の過程で目的を共有できた。
3 目的・目標の達成 事業の目的・目標は達成できましたか。	4	概ね達成できたが、計画を上回る成果への対応のため、目的まで到達できていない部分が残っている。
4 事業実施中の意見や情報の交換 適宜、意見や情報の交換を行い、必要に応じ協議事項の見直しを行うなど、柔軟に対応できましたか。	4	業務がスムーズに進行するよう、また生じた問題などに対して、逐次協議や報告し合うことで情報の共有を行い、問題に対応できた。
総合コメント 千葉市として新たな事業ではあったが、ニーズ調査を行うことにより一定の需要が確認できた。また、その需要に対応するための人材の育成については、当初の計画を上回る成果が得られた。しかし、実際の稼働に対しては、今後も継続的な協働が必要と思われる。		

2 協働の振返り

振返り項目	振返り結果 1～5を記入	コメント(理由、感想、気づいたことなど)
1-1 協働の形態の選択(市) 選択した協働の形態(委託、共催、事業協力、支援・補助)は適切でしたか。	4	当初は、お互いの役割を理解することに時間がかかったが、進捗するにつれて、役割を明確にできたと感じる。
1-2 協働の形態の選択(団体等) 自らの特性を活かせる連携方法でしたか。	—	—
2 協働の意義の明確化 協働で実施する必要性やねらいを明確にしましたか。	4	互いの役割を決めることで、協働で実施する必要性を明確にできた。
3 主体性・自主性の尊重 お互いを理解し、尊重して事業を進めましたか。	4	お互いを理解し、尊重して事業を進めることができた。
4 役割と責任の自覚 役割分担や責任の所在が明確でしたか。	4	協定や契約において、役割分担を明確にした。また、連絡を密にとることで取決め事項に対して柔軟に対応できた。
5 協働の成果 協働ならではの成果はありましたか。また、副次的な効果はありましたか。 副次的効果：会員が増えた、会員や職員の育成につながった、新たな事業展開や課題解決方法が見つかった等	5	受診サポーター養成講座のカリキュラムや実習などにおいて、実際に活動している団体ならではの視点や経験が活かされており、協働事業ならではの成果が表れた。
総合コメント 事業の開始に少し時間がかかってしまったが、協議や連絡を密にとることで、目標や進捗の共有ができた。そのため、問題等にも迅速に対応できた。また、市民団体と協働することで市単独では困難な成果が表れたと感じる。 この振返りは、協働事業を行った双方が、協働事業への理解を深め、良好なパートナーシップを構築することにより、お互いに成長し、また、よりよい協働事業の発展につなげるために実施するものです。得点の高低や事業の優劣をつけるものではありませんので、率直な意見を記入してください。		